慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	Fisher - Mathematical investigations in the theory of value and prices.の再版
Sub Title	
Author	寺尾, 琢磨
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1926
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.20, No.11 (1926. 11) ,p.1507(141)- 1512(146)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19261101-0141

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

しく緩和せられ、初版に見る論旨の精鋭と闊達とが尠なからず失はれて居る。

初版と修正版並に爾餘の著作とを比較して論評す可き點が少なくない。又之に關聯して「政治的正義」公刊前後の事情、ゴドヰンの性格と交友、不遇なりし其の晩年、並に時人後人に及ぼせる影響等に關して言ふ可き事は頗る多い。併し此等の事情に就ては、Preston が本書の卷頭に稍〻長文の Introduction を書いて居るから、讀者は之に就いて其の大要を知る事が出來よう。更に「政治的正義」に關聯してゴドヰンを論じたる主なる著書として、H. S. Salt: Godwin's "Political Justice" (with an introduction). 1890. C. Kegan Paul: William Godwin, His Friends and Contemporaries. 1876. H. N. Brailsford: Shelley, Godwin, and their Circle. (1913). Raymond Gourg: William Godwin, Sa Vie, Ses Oeuvres Principales. 1908. Pierre Ramus: William Godwin, der Theoretiker des Kommunistischen Anarchismus. 1907. Henri Roussin: William Godwin. 1913. William Hazlitt: The Spirit of the Age. (Vol. IV of Works, 1904) 等を擧げる事が出來るが、彼の生涯に關する最新の著書としては Ford K. Brown: The Life of William Godwin, London. 1926. がある。

ゴドヰンの「政治的正義」は社會主義的文書の中にありても最も古典的なるものゝ一つではあるが、之が社會的批判に關する思想は今日尙全く無用であるとは思はれない。"William Godwin is one of the men who most deserve a rereading in our time."—Introduction. P. xi.

伊藤秀一

Fisher—Mathematical investigations in the theory of value and prices. の再版

一八九二年 Transactions of the Connecticut Academy, vol. IX. に掲げられた Fisher の如上の學位論文が數學派經濟學に於ける不朽の名著なる事は周く人の知るところであつて、この學派に屬する著書にして之に言及せざるは稀である。然るに爾後絶版となり、徒らに名のみ高くして親しく之を披讀する機會は容易に得られなくなつた。Jacques Moret はその著 L'emploi des mathématiques en économie politique, 1915. に於て「右の書は書肆を渉獵するも得べからず、圖書館と雖も之を具ふるは稀である」と指摘し、斯くて二年後の一九一七年には自らこの佛譯（Recherches mathématiques sur la théorie de la valur et des prix.）を世に提供した。併しこの佛譯と雖も餘り廣くは行き亘つて居らぬらしい。かゝる次第であるから原書の再び世に現はれん事は此の方面に興味を抱く者の爾しく希望するところであつた。そしてこの希望は本書が最近 Yale 大學版として再版せらるゝ事に依つて滿たされた譯である。氏は新版の序文に再版の次第を述べて次の如く言つてゐる。「數學派經濟學者は本書の再刊を頻りに勸告し、その一人は本書は既に古典書の類に入つてゐるから從來よりも更に利用されねばならぬとも謂つた。三分の一世紀を經て再版を世に問ふ所以は茲に在る」(Pref. iii.)

既に本書が古典的色彩を帶ぶる以上、之に對する批評とか紹介とかは素より枚擧に遑なき程であつて、單に再版の事實を語る事に依つて紹介の任務は終ると言つてもよいのである。併し私は久しき以前より前掲佛譯書を增井敎授より貸與され、多少の親しみを覺えてゐる關係から、この機を利用してその內容の一端を紹介したいと思ふ。

註、本書の評論として手頃のものに Edgeworth (Papers relating to Pol. Econ. vol. III. pp. 36-41) や佛譯者 J. Moret の前掲書(pp. 136-142)がある。次の一文はこの兩者に負ふところが多い。

本書の要點は右佛譯に原著者自ら寄せた序文に明かである。曰く「本書の主題は次の四項目に分つ事が出來る。(一)經濟學に於ける數學の効果、(二)物理學及び液體靜力學機械に比較するの効果(三)衡量し得る數量としての利用の研究、(四)種々なる特殊例（例之、二種の貨物が相互に補充的なるとき又は代替的なるとき）に於ける利用の相互依賴關係を示す事」

本書は二部より成る。第一部は一貨物の利用は單に該貨物量のみの函數と見做し、第二部は一貨物の利用を總ての貨物の量の函數と見做すものである、この異る前提は推論に多大の相違を來さしむるものであるから豫め腦裡に留めて置く必要がある。

（第一部）、氏は先づ利用の單位を確定せんとする。曰く「Jevons, Marshall, Gossen, Launhardt の諸氏は抑も利用の比率なるものが何を意味するかを毫も說明しない。而も彼等は圖形の中にこの觀念を援用しつゝある。尤も Edgeworth は辛じて認知し得る快樂の增量は相等しと考へ、この minimum sensible を以て快樂を衡量すべき單位なりとした。：感覺を衡量する爲ならば右は恐らく唯一の方法であらう。斯かる場合には現象は主觀的なるものであり隨つて尺度も亦然りである。乍併、經濟學に於ては現象は客觀的なるものであり隨つて尺度も亦然る可きものである」と(p. 17)。乃ち氏は經濟理論より主觀的考量を排除せんとするものである。氏の認むる心理的前提は「各人はその欲するが儘に行動する」といふ一事に止まる。之より利用が數量たるべき定義を擧げる

(1) For a given individual at a given time, the utility of A units of (a) exceeds the utility of B units of (b), if the individual prefers A to the exclusion of B rather than for B to the exclusion of the other.

(a) is equal to the utility of B units of another (b), if the individual has no desire for the exclusion fo A.

この定義より氏は簡單なる交換方程式を求めてゐるが、その結果は Jevons のそれと同一である(p. 13.)。然るに氏は更に進んで右の二命題は未だ以て利用の數量的性質を釋明するに不充分であるとし、「吾人は一快樂が他の一快樂の正確に幾倍なるかを斷言する事は殆ど或ひは全く不可能である」との Jevons の一言は從來の數學派經濟學の缺陷を曝露しつゝあると見る。斯くて第一の問題は二利用の微少量の比を發見するにある。氏は麵麭の例を引て言ふ。今一人が一年に百本を消費するものとすればその最後の一本の利用は百五十本を消費する時の最後の一本の利用よりも大なる事は明かである。然らば兩者の比は如何「その比は百番目の利用と百五十番目の利用とを第三の利用と對比するに依つて發見せられる」。この第三の利用は任意貨物の限界利用である。乃ち一般に

(3) The ratio of two infinitesimal utilities is measured by the ratio of two infinitesimal increments whose ratio is required, provided these increments are on the margin of equal finite quantities.

而してこの定義は異る貨物（又は勤勞）の微少利用を比較するにも適用せられる(p. 16)、以上の三ツは乃ち利用の數量的性質を明かならしむる所以であると謂ふ。

之より更に利用の單位を定めんとし「任意の貨物の任意の量の限界に於ける限界利用は一定時一定人に對し利用の單位たるを得」と論じ、之を名けて util と言ふ。蓋し氏の新造語である。(Pantaleoni は Pure Economics, p. 128 に於て之に左袒してゐる)。かゝる概念は例へば Jevons の利用曲線の意味を明かならしむる効果がある。

尤も如上の所論は單に一箇人に對してのみ適用さるゝに過ぎぬ。異る二人間の利用比較に就ては

第二部第四章に移らねばならぬ。併し滿足すべき解答は得られない。大體に「かゝる企ては吾人の義務に非ず」と爲し、唯「之が果さるゝ時は必ずや客觀的標準に據る」と思考し、その標準は貨幣に非ずして寧ろ主要貨物の完全なる統計なるべしと想像してゐる。

再び元に遡り、氏は以上の諸定義を展開して自由競爭下の――乃ちn人がm種の貨物を取引する場合の――交換方程式を求めたが、その結果は Walras のそれと一致した。兩者の相違は前者は限界利用を貨物量の函數とし、後者は貨物量を價格の函數と爲す點のみである

交換問題を說明するに氏は幾何圖形よりも機械學の理を應用する。曰く「經濟學者にして斯學と機械學との對比を毫も試みざる者は殆ど無い。或る者は經濟上の力の作用は機械學の平衡の理と略類似すると言ふ、又價格の均一性を水準の平均性に譬ふる者もあり、Jevons は交換方程式を槓杆の法則に比した。……洵に經濟學者は多くの用語を機械學から借用してゐる。equilibrium, stability, elasticity, expansion, inflation etc. etc.。乃ち幾何學よりも機械學の援用を便とする。而も余の知る限りに於ては未だ何人も壯麗にして複雜なる平衡の問題を機械學的に示さんと企てた者は無い」と(p. 24)。斯くて氏は自ら實驗機具を製作し、之に依つて經濟的變動の相互關係をある程度迄眼前に展開せしむるを得た。Pantaleoni は「この機具は單なる科學的驚異では無い。又方程式を示す實際的行程に過ぎぬものでも無い。そは、適當に言へば、他の事情の等しき限り或る原因の結果を目前に髣髴たらしめ且つ之に近似的尺度を與ふる眞の研究具である」と評した（Moret, ibid. p. 140)。新版の序文に依れば右の機具も最近破損し昨年再造したとの事で卷頭にその寫眞が載せてある。著しく複雜の度を加へた事を觀取するであらう。

（第二部）に移ると共に第一部の假定は放棄され、一貨物の利用は他の一切の貨物量の函數として前提される。ローザンヌ學派に從へば斯かる前提より出發して一般平衡の問題を明かならしむる事が理論經濟學の窮極の目的であるが、Fisher は之に反して一般の場合は寧ろ第一部であり、第二部は單に second approximation と見做してゐる（p. 64.)。氏がローザンヌ學派に最も接近せる一人である事は洵に Murray の謂ふ通りである（Leçons d'écon. pol. suivant la doctrine de l'école de Lausanne, p. 67. n.)が、如上の懸隔の存する一事は之を記憶し置く必要がある。

氏は先ず如上の假定の下に於ては機械學的說明は最早や用ふ可らざるを明かにし、寧ろ自由なる記號に依賴せんとする。二貨物が相互依賴の關係に入るは兩者が代替的なるか、補足的なるかの場合である。

第一部の目的は上揭の三定義に立脚して價値及び價格の問題を解くに在つたが、異る二人間の利用を論ずるに當つて第三定義が無用となる事は明かである。否、氏は「價格及び分配を論ずるに際しては異る二人間の利用の比が如何なる意味なるかを明確ならしむる必要は無い」と論じ、「坐標式に賴らず、無差別曲線より出發するならば、第三定義は經濟平衡を釋明するに全く不必要である」と斷定した。これ蠕て Pareto の主題となりしものである。

第二部は數學的に示すに非んばその一端をも傳ふる事は困難である。Edgeworth は前揭書三八頁以下に於て數學を用ふる事なく之を企てたが、一般讀者が之に依つて如何なる程度迄 indifference curve, maximum direction 等の概念を理解し得るであらうか。私は此處に之を避けたいと思ふ。

私が特に興味を感ずるのは vector quantity の使用である。單に大さのみならず同時に方向をも示す事は物理學に於て最も重要であるが、經濟學に於ても之が使用は多大の効果があると思ふ。增加收入の使途を示す maximum direction の如きはこの一例である（p. 74 參照）

本書には四ッの附錄がある。第一、二は本論の注意と制限に關し、第三に於ては經濟學に於ける數學的方法の効果と歷史を簡單に述べ、第四はこの方面の文獻集である。第三は何人にも興味があ

ると思はれる。その中に於て斯かる方法を主張する代表者と之に反對する代表者とを各々數名宛擧げてその所說を竝列してゐる。その結論に於て氏は數學の援用を主張して曰く「經濟の世界は霧の國である。最初の探險家は援け無き視感を賴りとした。數學は灯火である。之に依つて從來朦朧たりしものも正體を曝露する。古き幻影は消え、視界は明るくなる。そして遙か彼方をも眺むる事が出來る」と。

文獻集は氏が Cournot の英譯に附したものに比し遙かに不完全である。前者と雖も一八九七年に至るものに過ぎぬから、本書の再版に當つてこの部分丈けは是非とも增補を望みたかつた。

寺尾琢磨

前號（第二十卷第十號）目次

（大正十五年十月號）

◎雅典國の收入　高橋誠一郎
◎イギリスに於ける發明の保護と工場工業の成立　園乾治
◎經濟學に於ける實踐理性の演繹　武部與八郎
◎シュバンの經濟學方法論の根本思想　藤林敬三
◎M. S. Miller : The Economic Development of Russia.　野村兼太郎
◎價値論に關する最近の二文獻　寺尾琢磨

●一冊定價金五拾錢
●半ケ年分金貳圓九拾錢
●一ケ年分金五圓四拾錢
郵稅金壹錢五厘
郵稅共

●編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
●營業に關する用件は發賣元宛
●原稿締切期日は發行の前月十日限

大正十五年十月廿一日印刷納本
大正十五年十一月一日發行
毎月一回一日發行

三田學會雜誌
禁轉載
第二十卷第十一號

編輯兼發行者　東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾內　江田範保
印刷者　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子鐵五郎
印刷所　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子活版所

發賣元　東京市芝區三田貳丁目壹番地　丸善株式會社三田出張所　電話高輪一九二六

●尙ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所　東京三田芝慶應義塾內　理財學會